

整理番号	44-17	事務事業名	(文化財保存活用事業) ふるさと太鼓保存事業		作成部署	生涯学習部 社会教育課	電話	内線889
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	山内平一郎	課長職名	可児正樹	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	H2	根拠法令等	北広島市教育関係団体補助金等交付規則					
〃 終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	郷土に関する愛着を高め文化を育てていくため、郷土芸能である「北広島ふるさと太鼓」を伝承・普及・保存するために開始。							

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	豊かな心と個性ある文化をはぐくむまち	(第4章)
	節	芸術と文化	(第4節)
	施策	歴史・文化の継承	(第4施策)
目的 (ここから成果指標を導きます)	対象 (誰、又は何を)	郷土芸能としての「北広島ふるさと太鼓」	
	意図 (何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	北広島の郷土芸能として「北広島ふるさと太鼓」を伝承し、その担い手として子どもたちを育成指導して市民に広く普及することを目的とした活動に対して補助を行う。	
手段 (ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	【北広島ふるさと太鼓保存会の活動】 北広島ふるさと太鼓 伝承 技術向上に向けての研修および練習 各種祭典への協力 後継者の育成 他団体との交流 会員相互の啓発並びに親睦
		17年度	同上

2 実施(ドウ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財		755		
	一般財源	180	245	170	170
	合計	180	1,000	170	170
人件費 (概算)	人数(年間)	0.002	0.002	0.002	0.002
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	18	18	18	18
総事業費 +		198	1,018	188	188

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	会員数(人)	20	26	28	28
	外部出演回数(回)	7	8	8	8
	練習の回数(回)	88	88	88	88
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	外部出演・練習等事業参加者数(人)	1,140	1,182	1,358	1,358
	外部出演回数(回)	7	8	8	8
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	事業参加者1人あたりのコスト	¥174	¥861	¥138	¥138
	(総事業費 / 事業参加者数)		太鼓修繕する年度のためコスト高になっている		

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	北広島ふるさと太鼓の伝承・普及・保存に鋭意努められているが、後継者の育成が課題となっている。
---------------------------------	--

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	無形文化財ともいえる北広島ふるさと太鼓の保存・普及に市の財産として行政が関与することは、文化財の保護という観点のほか、まちづくりにもつながり妥当と考える。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	まちづくりの一環としても郷土芸能の保存普及は大切なことであり妥当と考える。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	市民と行政の協働的運営を目指した補助交付による事業化は概ね適切考えるが、負担割合をいかにするかの検討も必要であると考え。	市全体の補助交付のあり方について補助率等の検討を行う場合、補助の公平性のみではなく、当事業のような市からの委託的色彩をもつ事業については考慮した補助率を設定する必要も考えられる。
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない		

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	外部への出演回数や練習回数、事業の参加者数はある程度に達しており、成果は概ね上がっていると考える。	外部からの出演依頼を増加させるための手法を講じたり、郷土芸能の普及のため小中学校で体験講習事業を行うなど、より地域に根ざした活動を検討する必要も考えられる。
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	延べ数ながら事業参加者一人当たりに対するコストを見た場合、比較的に廉価で対応できていると考える。	郷土芸能の保存普及という観点から、市のみならず多くの市内団体と連携し、効率性の追求のため検討する必要も考えられる。

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	より地域に根ざした郷土芸能の保存普及事業を推進していくための手法について検討していく。 また、市内各種の記念事業への参加機会を提供するなど、市民への意識啓発を促進させていく。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	歴史の浅い当市において、郷土芸能としての「ふるさと太鼓」の伝承・普及・保存という目的は重要であり、1次評価のとおり、より地域に根ざした郷土芸能としての普及方法を検討する。

付 表

補助金・交付金 交付先団体等の状況説明書

整理番号	44-17
------	-------

【交付先団体等の概要】

補助金・交付金名	ふるさと太鼓保存事業補助金		
交付先の名称及び代表者名	北広島ふるさと太鼓保存会 会長 藤山康雄	設立年	昭和55年
構成員(団体)数	26名 (17年3月末現在)		
交付先団体等の活動目的	北広島の郷土芸能として「北広島ふるさと太鼓」を末永く保存し、市民に広く普及することを目的とする。		
交付先団体等の活動内容	北広島ふるさと太鼓 伝承 技術向上に向けての研修および練習 各種祭典への協力 後継者の育成 他団体との交流 会員相互の啓発並びに親睦		
事務局の状況(16年度)	補助団体にある	市役所にある	
補助金等の充当状況(16年度)	運営費のみに充当	事業費のみに充当	運営費・事業費の双方に充当

【交付先団体等の決算・予算の状況】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	
収 入	本市補助・交付金の額(A)	180	1,000	170	
	負担金	20	167	19	
	事業収入	90	85	120	
	雑収入	0	432	41	
	繰越金	0	0	0	
	収入合計(B)	290	1,684	350	
支 出	事業費	214	13	120	
	運営費	26	159	100	
	通信費	0	4	5	
	修繕費	50	1,501	100	
	会場借上料	0	6	5	
	消耗品費	0	1	10	
	予備費	0	0	10	
	支出合計(C)	290	1,684	350	
繰越金	収入(B) - 支出(C)	0	0	0	
全体支出に対する本市補助・交付金の割合(A)÷(C)		62 %	59 %	49 %	
補助・交付金の対象経費(項目)		全ての経費(事業費)	全ての経費(事業費)	全ての経費(事業費)	
補助・交付金の対象経費(金額)(D)		290	1,684	350	
対象経費に対する補助・交付金の割合(A)÷(D)		62 %	59 %	49 %	
補助・交付金の算出根拠	定額(平成15年度:180千円、平成16年度:1,000千円、平成17年度:170千円)				